

令和7年度 労働安全・健康管理講習会

令和7年7月30日（水）に新潟県建設会館において「令和7年度 労働安全・健康管理講習会」を開催し、65名の方々が参加されました。

佐治会長から「能登半島地震及び奥能登豪雨災害に際し、多くの会員の皆様から災害復旧業務に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。7月1日から全国安全週間が実施され、当協会においても労働災害の未然防止に向けて、例年、この時期に講習会を開催しておりますが、今年は特に熱中症対策が強化されたことから、その内容を含めて詳しくお話をいただくことになっています。本日の講習会を契機に労働安全と健康管理の意識を更に高めて『安全で健康に働ける職場づくり』に取り組んでいただきたい。」との挨拶があり、次の内容で講義を受けました。

第一部

- 演題 「職場における熱中症予防対策」
- 講師 新潟産業保健総合支援センター 産業保健相談員 小坂 智恵子 様
- 内容 熱中症は暑さにより体内の血液の流れが低下し、体に熱がたまることで体温が上昇し発症するが、適切な対策を実施することで予防が可能となる。この6月1日から改正労働安全衛生規則が施行され、熱中症の重篤化を防止するため、①体制整備、②手順作成、③関係者への周知が義務づけられた。熱中症は、日常の行動や習慣で予防することが可能かつ重要である。

第二部

- 演題 「しなやかな現場力により安全を支える」
- 講師 建設業労働災害防止協会新潟県支部
安全衛生推進員／安全衛生指導員
労働安全コンサルタント 小島 芳昌 様
- 内容 現代の重大事故は、ほとんどがヒューマンエラーに起因しており、被害を甚大にしている。事故防止のためには、人任せではなく働く人も「自ら考える」取り組みを行うことが重要であり、自立的な活動を進めることで安全を支えることとなる。



小坂 講師



小島 講師